



平成 20 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社アムスライフサイエンス
代表者名 代表取締役社長 浅山雄彦
(J A S D A Q ・ コード 2927)
問合せ先 取締役社長室長 白鳥弘之
電 話 054-281-5238

資本業務提携及び第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 1 月 31 日開催の取締役会において、宝ホールディングス株式会社(以下「宝ホールディングス」という)と資本業務提携を行うこと並びに同社を割当先として第三者割当による自己株式の処分を行うことを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 資本業務提携の理由

当社グループは、少子高齢化を背景とした医療費の自己負担の増加や生活習慣病の増加などによる「セルフメディケーション」の意識の高まりに対応すべく、健康食品の研究開発、製造・品質保証、販売および健康情報の発信機能をグループ各社に内包し、昨年は、漢方薬の総合メーカーである「本草製薬」、体に優しい自然食品の販売を手掛ける「正直村」及び食べるコラーゲンのパイオニア「華舞」が当社グループに加わりました。

その結果、従来の健康食品の総合メーカーから、予防医学をコンセプトに自然治癒力を生かした総合健康企業集団を形成することができました。

しかし、最先端の研究成果を反映した機能性食品の素材、全国的なブランド力などの点で、やや出遅れておりました。

一方、宝ホールディングスでは、国内の少子高齢化などグループを取り巻く環境の変化に対応すべく、成長が期待できる機能性食品事業への対応力を高めるためにグループ内の事業を再編し、平成 18 年 9 月に宝ヘルスケア株式会社(社長:加門 哲也、以下「宝ヘルスケア」という)を設立しました。宝ヘルスケアは、タカラバイオ株式会社(社長:加藤

郁之進)が「医食同源」をコンセプトに開発を進めてきた機能性成分を応用した健康志向食品の販売に加え、アライアンス等を通じて独自に機能性食品を開発・販売していくことを販売戦略の一つに位置づけました。

しかし、健康食品業界での経験が不足しており、新規の販路や販売ノウハウの獲得が課題となっていました。

そこで、今回、双方が培ってきた企業ブランド、顧客基盤、ノウハウ、経験等の活用により、事業拡大を図ると同時に、顧客に対して新しい付加価値を提供し、各々の企業価値の最大化を図ることを目的とし、本業務提携をより実効性のあるものとするべく、資本提携を行うことといたしました。

2. 業務提携の内容

(1) 宝ホールディングス及びその関係会社(以下「宝グループ」という)が強みを持つエビデンスを持った研究開発素材と当社子会社本草製薬が持つ漢方薬のノウハウを生かした共同商品の開発

(2) 当社グループの販売ルートを通じて、宝グループ商品を積極的に販売する。

具体的には、次のとおりであります。

通信販売を手掛ける子会社エーエフシーにおいて、その会員向けに宝グループ商品を販売する。

医療用漢方製剤の製造販売を手掛ける当社子会社本草製薬が、そのお客様である開業医様を通じて、宝グループ商品を販売する。

一般用医薬品及びヘルスケア商品の販売を手掛ける当社子会社本草製薬が、その得意先であるドラッグストアを通じて、宝グループ商品を販売する。

自然食品の販売を手掛ける当社子会社正直村が、その直営店舗を置いている有名デパートで、宝グループ商品を販売する。

健康食品・化粧品の受託製造を手掛ける当社が、お客様である OEM(相手先ブランドでの製造)先に、宝グループの素材を配合した処方案を提案し、受託製造する。

3. 相手先の概要

| | |
|-----------|--|
| 商号 | 宝ホールディングス株式会社 |
| 事業内容 | 宝酒造株式会社(酒類・調味料・酒精事業) タカラバイオ株式会社(バイオ事業) 宝ヘルスケア株式会社(機能性食品事業) |
| 設立年月日 | 大正14年9月6日 |
| 本店所在地 | 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地 |
| 代表者の役職・氏名 | 取締役社長 大宮 久 |
| 資本金の額 | 132億2,600万円 |

| | | | |
|-------------------|---|--------------|----------|
| 発行済株式数 | 217,699,743 株 | | |
| 純資産 | 115,570 百万円 | | |
| 総資産 | 213,393 百万円 | | |
| 事業年度の末日 | 3月31日 | | |
| 従業員数 | 3,171 名 | | |
| 主要取引先 | 国分株式会社 | | |
| 大株主及び持株比率 | 株式会社みずほコーポレート銀行 4.47% 農林中央金庫 4.36% 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 3.96% 明治安田生命保険相互会社 2.90% 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 2.65% 株式会社京都銀行 2.30% 国分株式会社 1.44% 三菱商事株式会社 1.38% 住友信託銀行株式会社 1.26% ビー・エヌ・ピー・パリバ・セキュリティーズ (ジャパン)リミテッド (ビー・エヌ・ピー・パリバ株式会社) 1.26% | | |
| 主要取引銀行 | 株式会社みずほコーポレート銀行 農林中央金庫 株式会社京都銀行 住友信託銀行株式会社 | | |
| 当社との関係等 | 資本関係 | 該当事項は、ありません。 | |
| | 取引関係 | 該当事項は、ありません。 | |
| | 人的関係 | 該当事項は、ありません。 | |
| | 関連当事者への該当状況 | 該当事項は、ありません。 | |
| 最近3年間の業績 (単位:百万円) | | | |
| 事業年度の末日 | 平成17年3月期 | 平成18年3月期 | 平成19年3月期 |
| 売上高 | 195,359 | 196,119 | 198,535 |
| 営業利益 | 7,402 | 5,924 | 7,660 |
| 経常利益 | 6,838 | 5,931 | 7,846 |
| 当期純利益 | 2,614 | 5,320 | 4,208 |
| 1株当たり当期純利益(円) | 11.74 | 24.39 | 19.44 |
| 1株当たり配当金(円) | 7.50 | 9.00 | 7.50 |
| 1株当たり純資産(円) | 414.58 | 470.10 | 473.61 |

4. 日程

| | |
|------------------|--------------|
| 平成 20 年 1 月 31 日 | 資本業務提携契約締結 |
| 平成 20 年 2 月 15 日 | 株式の割当て（払込期日） |

5. 今後の見通し

本件が今期当社業績に与える影響については、検討を重ねております。
今後、その影響が判明次第速やかにお知らせいたします。

6. 自己株式処分要領

| | |
|-----------------|----------------------|
| (1) 自己株式処分数 | 当社普通株式 28,270 株 |
| (2) 処分価額 | 1 株につき 6,580 円 |
| (3) 処分価額の総額 | 186,016,600 円 |
| (4) 処分方法 | 宝ホールディングス株式会社に割り当てる。 |
| (5) 払込期日 | 平成 20 年 2 月 15 日 |
| (6) 処分後の自己株式数 | 15 株 |

7. 処分の目的及び理由

上記「1. 資本業務提携の理由」に記載のとおりでございますが、双方が培ってきた企業ブランド、顧客基盤、ノウハウ、経験等の活用により、事業拡大を図ると同時に、顧客に対して新しい付加価値を提供し、各々の企業価値の最大化を図ることを目的に、本業務提携をより実効性のあるものとするべく、当社自己株式を宝ホールディングスに譲渡するものであります。

8. 調達する資金の額及び使途

- (1) 調達する資金の額（差引手取概算額）
186,016,600 円
- (2) 調達する資金の具体的な使途
自己株式の処分による取得資金は、宝グループとの共同研究開発費、販売促進費用及び工場の機械設備購入資金に充当することを、予定しております。
- (3) 調達する資金の支出予定時期
平成 20 年 2 月より随時。
- (4) 調達する資金使途の合理性に関する考え方
上記「2. 業務提携の内容」に記載の宝ホールディングスとの健康食品分野における業務提携を積極的に推進することが、企業価値の向上に繋がるため、合理的であると考えております。

9. 最近3年間の業績及びエクイティ・ファイナンスの状況

(1) 最近3年間の業績(連結)

(単位:百万円)

| 事業年度の末日 | 平成17年8月期 | 平成18年8月期 | 平成19年8月期 |
|---------------|-----------|----------|----------|
| 売上高 | 5,955 | 5,459 | 6,952 |
| 営業利益 | 983 | 482 | 643 |
| 経常利益 | 918 | 483 | 872 |
| 当期純利益 | 531 | 287 | 484 |
| 1株当たり当期純利益(円) | 1,533.23 | 240.31 | 405.81 |
| 1株当たり配当金 円 | 200 | 100 | 100 |
| 1株当たり純資産 円 | 11,422.39 | 3,946.48 | 4,153.24 |

上場記念配当100円が含まれております。

(2) 現時点における発行済株式数及び潜在株式数の状況(平成20年1月31日)

| 種類 | | 株式数 | 発行済株式数 に対する比率 |
|-------------------------|--|------------|------------------|
| 発行済株式数 | | 1,214,502株 | 100% |
| 現時点の転換価額(行使価額)における潜在株式数 | 内訳 | | |
| | 現時点のストックオプションにおける潜在株式数 | 4,650株 | 0.38% |
| | 2010年3月1日満期円貨建 転換社債型新株予約権付社債 における潜在株式数 | 123,737株 | 10.18% |
| 下限値の転換価額(行使価額)における潜在株式数 | 2010年3月1日満期円貨建 転換社債型新株予約権付社債 における潜在株式数 | 123,737株 | 10.18% |
| 上限値の転換価額(行使価額)における潜在株式数 | 該当なし | 該当なし | 該当なし |

(3) 最近の株価の状況

最近の3年間の状況

| | 平成17年8月期 | 平成18年8月期 | 平成19年8月期 |
|--------|----------|----------|----------|
| 始値(平均) | 45,617円 | 15,611円 | 6,808円 |
| 高値(平均) | 54,325円 | 17,445円 | 7,203円 |
| 安値(平均) | 35,985円 | 13,307円 | 6,318円 |
| 終値(平均) | 42,370円 | 14,443円 | 6,820円 |

平成18年8月期の平成17年10月20日に、1株を3株に分割いたしました。

最近6ヶ月間の状況

| | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 始値(平均) | 7,100円 | 7,350円 | 6,850円 | 6,470円 | 6,720円 | 6,740円 | 6,686円 |
| 高値(平均) | 7,600円 | 7,350円 | 6,900円 | 6,900円 | 6,800円 | 6,740円 | 6,747円 |
| 安値(平均) | 7,050円 | 6,550円 | 6,380円 | 6,370円 | 6,180円 | 6,310円 | 6,632円 |
| 終値(平均) | 7,350円 | 6,870円 | 6,450円 | 6,890円 | 6,700円 | 6,530円 | 6,707円 |

発行決議日前日における株価

| | 平成20年1月30日現在 |
|----|--------------|
| 始値 | 6,820円 |
| 高値 | 6,950円 |
| 安値 | 6,820円 |
| 終値 | 6,840円 |

(4) 今回のエクイティ・ファイナンスの状況

・第三者割当による自己株式の処分

| | |
|-----------|---|
| 自己株式処分数 | 当社普通株式 28,270株 |
| 処分価額 | 1株につき6,580円 (平成19年10月31日から平成20年1月30日までの3ヶ月間の株式会社ジャスダック証券取引所における当社普通株式の終値平均(1円未満切上げ)) |
| 処分価額の総額 | 186,016,600円 |
| 処分方法 | 宝ホールディングスに割り当てる。 |
| 払込期日 | 平成20年2月15日 |
| 処分後の自己株式数 | 15株 |

(5) 最近 3 年間のエクイティ・ファイナンスの状況

・上場時の新株式発行

| | |
|---------------|-------------------------------------|
| 発行期日 | 平成 17 年 3 月 2 日 |
| 調達資金の額 | 1,487,500,000 円 (発行価額 : 21,250 円) |
| 募集時における発行済株式数 | 274,800 株 |
| 当該増資による発行株式数 | 70,000 株 |
| 当初の資金使途 | 第二工場新設による設備投資及び借入金の返済 |
| 当初の支出予定時期 | 平成 17 年 3 月。 |
| 現時点における充当状況 | 全額充当済 |

・ 2010 年 3 月 1 日満期円貨建転換社債型新株予約権付社債の発行

| | |
|----------------|--|
| 払込期日及び発行日 | 平成 18 年 2 月 28 日 |
| 発行総額 | 2,010,000,000 円 |
| 募集時点における発行済株式数 | 1,195,752 株 |
| 募集時における潜在株式数 | 当初の転換価格 19,110 円における潜在株式数 : 105,180 株 転換価格下限値 16,244 円における潜在株式数 : 123,737 株 |
| 現時点における転換状況 | 0 株 |
| 当初の資金使途 | 生産能力増強等のための設備投資及び借入金の返済 |
| 割当先 (募集方法) | Mizuho International plc, London, Zurich Branch (「 買取人 」 という。) の総額買取引受によるスイス連邦を中心とする海外市場 (ただし、アメリカ合衆国を除く。) における私募。 |
| 当初の支出予定時期 | 平成 18 年 8 月。 |
| 現時点における充当状況 | 全額充当済 |

10. 処分後の大株主及び持株比率

| 処分前（平成19年8月31日現在） | | 処分後（平成20年2月15日予定） | |
|---------------------------|--------|---------------------------|--------|
| 浅山 忠彦 | 37.71% | 浅山 忠彦 | 37.64% |
| 浅山 雄彦 | 9.07% | 浅山 雄彦 | 9.05% |
| 浅山 麻衣子 | 4.41% | 浅山 麻衣子 | 4.40% |
| 浅山 麻里奈 | 4.40% | 浅山 麻里奈 | 4.39% |
| 株式会社 アムスライフサイエンス | 2.33% | 宝ホールディングス株式会社 | 2.32% |
| 浅山 広美 | 1.79% | 浅山 広美 | 1.79% |
| 福地 千佳 | 1.58% | 福地 千佳 | 1.58% |
| 静岡キャピタル株式会社 取締役社長 鈴木庸夫 | 0.68% | 静岡キャピタル株式会社 取締役社長 鈴木庸夫 | 0.68% |
| 中西 豊 | 0.53% | 中西 豊 | 0.53% |
| 西村 健一 | 0.50% | 西村 健一 | 0.50% |

11. 業績への影響の見通し

業務提携から資本提携に踏み込んだことにより、取扱商品が増え、売上が増加し、かつ資金も獲得でき、工場機械投資なども行われることから、企業価値の向上に繋がるものと確信しておりますが、今期当社業績に与える影響については、検討を重ねております。

今後、その影響が判明次第速やかにお知らせいたします。

12. 処分条件等の合理性

(1) 処分価額の算定根拠

1株当たりの処分価額は、本件処分に係る取締役会決議日前日の直近3ヶ月間（平成19年10月31日から平成20年1月30日まで）のジャスダック証券取引所における当社株式の終値の平均値（1円未満切上げ）といたしました。今年に入ってからの上昇を考慮し、長期間の平均価格を採用することが客観性が高いと判断したためです。

(2) 処分数量及び株式の希薄化の規模が合理的であると判断した根拠

今回の自己株式処分数の発行済株式数に占める割合は2.32%と低いことから、株式の希薄化及び流通市場への影響は軽微であると同時に、資本業務提携の効果による、企業価値の向上が図れることから合理的であると確信しております。

13. 処分先の選定理由等

(1) 処分先の概要

上記記載の「3. 相手先の概要」をご参照下さい。

(2) 処分先を選定した理由

上記「1. 資本業務提携の理由」に記載のとおりでございますが、業務提携先の一つである宝ホールディングスの企業ブランドと宝グループの製品開発力を最大限考慮すると同時に、業務提携をより実効性を高めるため、自己株式の処分先として選定いたしました。

(3) 処分先の保有方針

宝ホールディングスからは、処分する株式の保有方針について、業務提携の主旨に鑑み、中・長期的に保有する意向であることを確認しております。

なお、当社は上記処分先との間において株式を処分した日から2年間に当該処分株式の全部または一部を譲渡した場合には、当該譲渡に関して当社へ報告する旨の確約をすることを処分先との間で内諾を得ております。

<参考> 宝ヘルスケア商品のご紹介

今回資本業務提携をおこなう宝ホールディングス株式会社の機能性食品事業子会社である宝ヘルスケア株式会社における、代表的な取扱い商品は以下の通りです。

フコイダン

タカラバイオは、長年にわたり健康食として食されてきた”昆布”が持つチカラに着目、様々な昆布のなかでもヌメリ成分が特に多いガゴメコンブに注目し、その主成分である、ガゴメ昆布「フコイダン」の機能解明の研究を0年来続けております。最新のバイオ技術を駆使し、世界で初めて、U-フコイダン・F-フコイダン・G-フコイダンの化学構造を決定することに成功しました。(1)

タカラバイオはこの、ガゴメ昆布「フコイダン」を抽出し、独自の製法(2)で、1996年にフコイダンシリーズを販売、ご好評いただいで10年余になります。

- 1: 日本特許第3506672号 日本特許第3523597号 米国特許第6207652号
- 2: 日本特許第3505185号



ガゴメコンブ



ガゴメコンブのヌメリ



TaKaRaフコイダン
<ドリンク>200

明日葉

宝ヘルスケアがお届けする明日葉製品の原材料は100%国内産。屋久島や鹿児島などにタカラバイオ直営および契約の明日葉生産農場を所有しています。

どの農場でも、土づくりに始まり、栽培から収穫までのすべての工程を人の手により丁寧に行っています。



収穫は愛情をこめて
すべて手作業で行う



黄色くしみ出している汁
が明日葉「カルコン」



明日葉青汁<顆粒タイプ>

寒天

寒天は酸と熱により分解されると、寒天オリゴ糖(アガロオリゴ糖)というオリゴ糖が生成されます。人の体の内でも胃酸と体温に反応して、ある程度生成されていると考えられますが、タカラバイオは、この寒天オリゴ糖を安定して製造する方法を開発しました。タカラバイオは、長年に渡る寒天研究により、寒天オリゴ糖にこれまで知られていなかった、さまざまな有用性があることを科学的に解明しています。



とろける寒天 DIET
(ダイエット)



飲む寒天<カロリーオフ>

以 上